

殺虫剤

カルタップ粒剤

パダン®粒剤4

農林水産省登録 第11188号

(住友化学㈱登録)

性状：類白色細粒

毒性：劇物

有効年限：4年

包装：3kg×8

有効成分：カルタップ塩酸塩（PRTR・1種）・・・・・4.0%

殺虫剤分類

14

パダン®は住友化学㈱の登録商標です。

特 長

(水面施用剤として)

- 散布適期の幅が広い：コブノメイガやイネツトムシなど食害性害虫に対して散布適期の幅が広く、安定した高い防除効果を示します。
- 天敵に影響が少ない：クモや寄生蜂に影響の少ない薬剤です。

(育苗箱施用剤として)

- イネミズゾウムシの幼虫防除に優れた効果：イネミズゾウムシに対して、産卵抑制作用、殺幼虫作用などを発揮しその被害防止と密度抑制に効果的です。
- イネドロオイムシに長い残効性：イネドロオイムシが発生するほぼ全期間にわたって防除効果を発揮し、他剤抵抗のイネドロオイムシにも有効です。
- ツマグロヨコバイ(萎縮病、黄萎病)に優れた効果：本田初期のツマグロヨコバイに高い効果を発揮することによりウイルスなどの媒介活動を阻止し、萎縮病や黄萎病の発病を食い止めます。
- 用法は簡単で省力的：移植前の育苗箱へ均一に施用するだけですから、本田での散布にくらべ、省力的です。
- 使用薬量が少なく経済的：本田散布にくらべ、少ない薬量で長期間にわたり高い防除効果を発揮するので経済的な防除ができます。

(育苗箱床土混和剤として)

- 本田初期害虫を省力防除：播種前に床土に混和するだけで初期害虫の防除ができます。播種1ヶ月前から当日まで、いつ混和してもよいので労働力の分散ができ、また肥料などとの同時混和もできるので大量の育苗箱に薬剤施用する場合などに好適です。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	10アール 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを 含む農業の 総使用回数
稲(箱育苗)	イネドロオイムシ イネハモグリバエ ツマグロヨコバイ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50～100g	は種前 又は 移植当日	1回	は種前に育苗箱床土 に均一に混和するか、 又は移植当日に育苗 箱中の苗の上から均 一に散粒する。	6回以内 (浸種前は1回以内、 浸種後から移植時ま での処理は1回以内)
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ (食害防止)	育苗箱 1箱当り 60～100g				
	ニカメイチュウ イネゾウムシ幼虫	育苗箱 1箱当り 80～100g				
稲	ニカメイチュウ イネツトムシ コブノメイガ フタオビコヤガ アザミウマ類	3～4kg	収穫30日 前まで	6回以内	散布	6回以内 (浸種前は1回以内、 浸種後から直播での は種時又は移植時ま での処理は1回以内)
	サンカメイチュウ 第3世代 スクミリンゴガイ (食害防止)	4kg				
ひえ	アワノメイガ		収穫21日前 まで	2回以内		2回以内
ふき	フキノズイバエ	6kg	収穫7日前 まで			

作物名	適用病害虫名	10アール 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カルタップを 含む農薬の 総使用回数
ふき (ふきのとう)	フキノズイバエ	6kg	収穫21日前 まで	2回以内	散布	4回以内 (水溶剤の処理は2回 以内、粒剤の処理は 2回以内)
とうもろこし	アワノメイガ		収穫7日前 まで		株の上から均一に散 粒する。	2回以内
はとむぎ	アワノメイガ イネヨトウ	4kg	収穫14日前 まで		散布	
ほうれんそう	ミナミキイロアザミウマ	6kg	は種時及び 発芽揃時		土壌表面散布 及び茎葉散布	
だいこん	キスジノミハムシ	4kg	は種時	3回以内	覆土後土壌 表面散布	3回以内
			生育期 但し、収穫7 日前まで		株元散布	
まこもたけ	ニカメイチュウ		収穫75日前 まで		散布	

使用上の注意事項

- 本剤を使用した場合には、チオシクロラム又はペンスルタップを含む剤は使用しないでください。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は田水中で粒形が崩壊しなくても成分は速やかに溶出するので薬効に影響はないです。
- 本剤を本田に使用する場合、3cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。
- 漏水のはげしい水田では使用しないでください。
- 本剤をとうもろこしのアワノメイガに使用する場合、アワノメイガのふ化盛期に雄穂及び雌穂にもかかるよう株の上から均一に散布してください。
- スクミリンゴガイに対しては、食害防止効果を目的として使用してください。本剤には殺貝効果がないので、水田以外の生息地には決して使用しないでください。
- 本剤を育苗苗に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - 使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し所定の範囲内となるべく低薬量で使用してください。特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

[移植当日に使用する場合]

- 育苗箱中の苗の上から所定量を均一に散粒してください。なお、葉に付着した本剤は軽く払い落とし、そのまま田植機にかけて移植してください。
- 施用は必ず移植当日に行ってください。薬剤施用から移植までの時間が長いと薬害を生じ易くなるので、なるべく移植直前(2～3時間以内)に施用してください。
- 本葉がぬれていては薬害を生じ易いので、散布直前の湛水はしないでください。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗に使用してください。

[床土に混和する場合]

- 床土に人工培土を使用する場合には予め薬害に対して安全性の確認されている培土を使用してください。
- 播種前に育苗用床土に所定量の薬剤を均一に混和する。覆土への混和は行わないでください。
- 土壌の種類によっては育苗期間中に葉先枯れなどの薬害を生じることがあるので床土が下記のような土壌の場合には使用をさけてください。
 - ・火山灰性の畑土、山土(りん酸吸収係数2000以上のもの)
 - ・砂土など有機物の含量の少ない土壌。尚、火山灰土、砂土など薬害を生じやすい土壌の場合でもモンモリロナイト(粘土の一種)に富む育苗資材を床土に5%程度混和することにより薬害を軽減することができます。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗の育成に努めてください。
- 育苗箱に本剤を使用した苗の移植をする場合は次の注意を守ってください。
 - 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じ易いので代かきは丁寧にを行い、移植後田面が露出したりすることないように注意してください。移植後は直ちに入水し、水深2～3cm程度を保ち浅水はさけてください。
 - 深植の場合には薬害を生じ易いので注意してください。
 - 本田が砂質土壌の場合や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけてください。
 - 移植後極端な低温や高温(30℃以上)が続くと予測される場合、あるいは冷水がかりなど低温障害が起こりやすい場所では使用をさけてください。
 - ニカメイチュウに対しては早期栽培など、特に薬剤施用時期が早い場合や、ニカメイチュウ第一世代の発生が遅れた場合には十分な効果が期待できません。

- イネゾウムシに対しては主として本田でのふ化幼虫の密度を下げ次世代の成虫の加害を低下させることを目的として使用するものであり、越冬成虫に対する効果は期待できません。
- スクミリンゴガイに対しては本剤の育苗箱処理は効果の持続が十分でないことがあるので、本貝に有効な本田処理剤や耕種の防除法との組み合わせで使用してください。
 - 本剤はつまみ菜、間引き菜に使用しないでください。

安全使用上の注意事項

- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさけてください。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤による中毒に対しては動物実験でL-システイン製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 水産動植物(ドジョウ)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池等周辺での使用はさけてください。
- 散布後または移植後は、水管理に注意してください。

保管に関する注意事項

- 直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。